

超長期的視点から見た人口・環境・社会

会場 立命館大学衣笠キャンパス図書館カンファレンスルーム

2019年8月2日(金) 13:00 - 17:00

12:30	受付開始		
13:00-13:05	開会あいさつ		
13:05-13:20	縄文遺跡から人口動態を探る	趣旨説明	矢野健一(立命館大学)
13:20-13:55	洞穴遺跡の実態		遠部慎(久万高原町教育委員会)
13:55-14:30	九州における鬼界アカホヤ噴火前後の縄文遺跡の動態		栗畑光博(都城市教育委員会)
15:00-15:35	瀬戸内海の海水準変動に伴う人口変動		山本悦世(岡山大学)
15:35-16:50	質疑応答		
16:50-17:00	閉会・事務連絡		

2019年8月3日(土) 10:30 - 16:05

10:10	受付開始		
10:30-10:35	開会 事務連絡		
10:35-10:45	過去の環境変化を解明する	趣旨説明	高橋学(立命館大学)
10:45-11:15	湖底堆積物の研究からわかる災害の繰り返し		福本侑(立命館大学)
11:15-11:45	同位体分析で探るインカ帝国内の食の多様性		瀧上舞(国立歴史民俗博物館)
11:45-12:15	環境史学の視点にみるちょうどよい人口動態とは?		山田和芳(ふじのくに地球環境史ミュージアム)
12:20-13:45	休憩		

12:30-13:45 古代の甘味「あまつら」の復元とその試食

12:30-12:35	趣旨説明		
12:35-13:00	古典籍と科学の出会い	入口敦志(人間文化研究機構・国文学研究資料館)	
13:00-13:20	あまつらの再検討—文献と化学分析からわかったこと—		神松幸弘(立命館大学)
13:20-13:45	令和とあまつら—30年前のあまつら復元の映像+質疑応答		

歴史的典籍NW事業 異分野融合共同研究(和食と伝統医学の研究)「料理・調味料の復元と活用に関する研究」の助成を受けました。

13:45-13:55	超長期的な社会変化を見通す	趣旨説明	小川さやか(立命館大学)
13:55-14:25	アラル海災害への適応と地域社会のレジリエンス:災害後の生業の選択という側面から		地田徹朗(名古屋外国語大学)
14:25-14:55	長期的な周期で起きる災害と社会の関わり		木村周平(筑波大学)
14:55-15:25	環境変化からみた環太平洋圏におけるヒトの移住史		小野林太郎(国立民族学博物館)
15:25-16:00	質疑応答		
16:00-16:05	閉会のあいさつ		

交通アクセスは立命館大学のHPをご覧ください。http://www.ritsumeai.ac.jp/accessmap/kinugasa/

立命館大学環太平洋文明研究センター事務局: Tel 075-466-3335 Email r-ppc@st.ritsumeai.ac.jp

主催 立命館大学環太平洋文明研究センター



共催 国文学研究資料館



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
国文学研究資料館

立命館グローバル・イノベーション研究機構(R-GIRO)
私大ブランディング事業



この事業は文部科学省「私立大学研究ブランディング事業」助成を受けて運営しています。

各日先着

80名様